

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795700014		
法人名	社会福祉法人 憲寿会		
事業所名	グループホームときわ苑		
所在地	八重瀬町字当銘370-1		
自己評価作成日	平成 30年 11月 29日(木)	評価結果市町村受理日	平成31年 4月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=4795700014-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 12月 20日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は母体施設の特別養護老人ホームを隣接しており、年間行事計画等(桜見物、ハッピー見物、ゲートボール大会、納涼祭り)は、入居者様やご家族、職員、地域住民との交流の一環として毎年開催しています。また、グループホームでは季節に即した諸行事(ひな祭り、母の日、父の日、敬老会、忘年会、クリスマス)をはじめ、入居者様の趣味や嗜好を考えた活動として職員との共同による手工芸や、書道等も位置づけています。また、法人施設の看護師の24時間オンコール体制や、認知症専門外来や内科等定期受診の際は必要に応じて送迎や付き添い、同行受診を行っており入居者様の生活状況や認知症状等について、担当医へお伝えし、必要に応じた相談や処方をしていただいております。必要に応じて、ご家族も一緒に受診して担当医からの症状説明や治療方法及び処方薬等の説明をしていただき納得した上で安心して頂く為の対応もしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を職員全員で共有し利用者の「あなたらしさ」を大切に気軽に全員で外出したり利用者のペースに合わせた支援を行っている。また、地域の中に溶け込み近隣住民や自治会とも良好な関係作りができています。退所された家族も事業所へ足を運んでくれ、利用者との馴染みの関係を継続している。事業所の隣が畑で植物が大きくなっていく様子を見たり、収穫時におすそ分けをいただいたり、畑の持ち主に利用者が差し入れて飲み物を渡したりと馴染みの関係ができています。収穫後にも花が植えられ花と緑に囲まれ心地の良い風が通り抜けていく場所に事業所が建っている。近隣に法人本体もあり連携が確立されている。職員と家族の関係性も良く面会時に話が弾むが、家族だけの時間を作ったり一人になる時間を作ったりしている。職員が大型免許を持っている為、気軽に全員での外出支援も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様個々の尊厳を大切にすることを心がけて「暮らしやすい環境の下、悠々と温々と今日んあなたらしさを支援致します」との理念を大切にそれぞれがその人らしく生活できるよう寄り添い支えることを基本に支援にあたっています。又、入所者様とご家族の関係性の維持支援や入所者様とご家族が安心してお互いの生活が送れるよう寄り添いながら事業所で出来る事は、対応にあたる事が大切である事を大切に接しております。	開設時からの理念を職員全員で共有し、利用者の安心したその人らしい暮らしが出来るよう支援している。自分の家で暮らしているように朝起きる時間や食事時間、レクや散歩の時間も希望に沿えるように支援している。利用者の大切な時間を無駄にしない様、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八重瀬町港川ハーリー、ゲートボール、区民運動会見物、豊年祭見物、法人主催の本島縦断駅伝大会の応援、納涼祭りには地域の住民や入居者家族を招いて交流しています。又、予防通所サービス利用者にもいつでも尋ねても良いですとお伝えして、実際に訪問した頂いて楽しい時間が持てるように事業所でおもてなしをするようにしております。今年から小城2班に入り、地域行事の招待を受けて、駅伝の応援に出向いたりして交流を図っております。	今年度、小城自治会に加入することができ地域の清掃や草刈り、地域の駅伝の応援などにも参加している。隣の畑の方からは収穫した野菜をいただいたり、事業所からお茶を差し入れたりしている。退所された近隣の家族が遊びに来てくれたり交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校、中学校、高等学校からの職場体験を積極的に受入れ、老いは、認知症とは事業所役割、地域における個々の高齢者、認知症高齢者等について理解して頂けるように説明すると同時に自分達に関わる役割について、学校や家庭に持ち帰り、学級や学校全体で検討する機会を持つように依頼もしております。更に引率の先生やご父兄にも合わせてお願いする活動を継続しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している運営推進会議で、入居者様の生活状況、ヒヤリハット、事故などの報告を行い、意見・情報交換をしています。ケアの振り返り職員の技能向上の貴重な契機になります。又、開所以来関わってきたご家族との交流は今も続いており、時々、尋ねてきたり、地域行事においても声をかけていただいたり、個々が事業所や職員の対応について近隣の相談を受けた際に説明してくれたり、説明を受けたご家族からの実際に問い合わせや、来所していただき見学も実施する機会も頂いたりしております。	運営推進会議は偶数月に開催し年6回行われている。利用者、家族、行政、地域代表と同じ地区のグループホーム管理者が参加し、事業所での様子を写真のみてもらったり、ヒヤリハットや事故報告などをし意見交換を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には八重瀬町社会福祉課主事や八重瀬町地域包括支援センター主任が委員として参加しており、GHの現状についてのみならず、地域の高齢者の状況についても情報交換をして、協力関係を構築しています。	運営推進会議にも毎回参加してもらい情報共有している。八重瀬町でのケアマネジャーの連絡会を立ち上げにも係わり、意見交換の場としている。事業所からは行政に色々と提案や要望を出しているが今のところ反映されていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で身体拘束について、毎月のグループホーム会議等で個々の支援策検討において、身体拘束に繋がらないかについては、常に確認される機会があります。その際に身体拘束について改めて確認をしながらケアに取り組んでおります。	身体拘束の研修や勉強会を定期的に行うだけではなく、日頃から身体拘束について話し合い、事例をあげたり身体拘束に当たるのでは？と思うことを職員全員で共有している。身体拘束廃止委員会も設置し会議記録も整備されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員個々について、介護は人間がする行為であり対応する職員は、心身の健全に図り維持する努力が求められ、日頃の生活習慣や自らの生活環境が安定するよう意識しなければならない。その行為が自らの心のゆとりにつながり、人に対する敬愛の念を持つ事が出来る旨をケース会議やグループホーム会議において話し合い、虐待のリスクを減らすよう、自身の立ち居振る舞いを確認しております。又、ご家族の心理状態を推し量り、無理のない協力から取組み入所者様とご家族の関係性の安定保持に努めるように意識しております。	毎月の会議でが虐待についての勉強会など行われている。また、職員の心身の安定が虐待防止にもつながるとの想いからコミュニケーションを多く取り話しやすい職場づくりをしている。職員は話し方や、本人に無理強いすることも虐待に当たるとの共有認識をもちケアに当たっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修への参加や、情報収集、学習を行い見識を深めるように努めました。又、実際に後見人制度を利用している甥さんとの関わりもある事からその入所者と甥との関係性を通して、職員個々と入所者の状況報告を通して、学べる機会を頂いたおります。認知症の高齢者にとって、権利擁護、後見人制度は有効であると実感しております。必要と思われるケースが生じた際は、積極的に説明、資料提供、手続き関係への手伝いをしたいと考えております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、入所予定者やご家族に対して重要事項説明の内容を読み上げ、具体的な対応方法や事例をあげて、分かりやすい言葉で説明するように心がけております。又、月額料金の提示や料金内訳の説明をするようにしております。 不安や疑問点には、分かりやすい説明を心がけております。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご要望やご希望については、個々の聞き取りや全員が集まる余暇活動等で聞き取りをしております。ご家族に関しては、ご来苑時や訪問で聞き取りをしたり、直接言にくい事は、ご意見箱を設置して無記名で投書するようお願いしております。これまで、入所者様の要望や家族からの依頼事やご相談があった内容で具現化出来るように職員間で検討したり、入所者やご家族に対する支援が必要であると思われるものについてもサービスの一環として実施出来るようにしております。	利用者から日頃の会話より意見を聞き、食べたい物や行きたい場所など出来る限り対応している。面会時には家族から要望を聞き、病院受診に家族対応ができない場合に受診の送迎の対応をしたり、家族が言いにくいことを医師に伝えたりしている。家族からの意見で貸し出し用の車いすを準備している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月開催のグループホーム会議、担当責任者会議で意見や提案をして各自が向上心をもって働けるように意見を具現化出来るように情報収集や上層部との意見交換を図り、予算の確保や業務内で職員間や入所者と一緒にアイデアを出し合っ一緒に楽しめる時間を設けたり、職員のモチベーションに繋がるように支援しております。	職員から日頃より意見がよく出ていて月1回の会議でまとめ、方向性や結果の報告をそのつど行っている。会議や研修へ行く場合も勤務扱いとし、資格手当もつく為、職員のモチベーションアップになっている。職員からの意見でおやつ作りを利用者と一緒に行いたいとの意見があり、予算が付くことになった。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善点や処遇上の要望を提案できる場を設定しています。また、職員に対して悩みや相談事がないか声かけを欠かさず行っています。又、事業所単独や関連事業所や法人の行事があります。その際にもボランティア出勤ではなく、時間外手当や休日出勤として取り扱うように対応しております。負担の内容に行事時間の間のみ手伝いを依頼しております。又、職員個々の世代による行事もあり、少ない職員数であるがゆえに、お互いで助け合いながら不公平のないように調整を図りながら少しでも働きやすい環境を設けるように努力を続けております。	健康診断やインフルエンザの予防接種を勤務時間内に行けるよう配慮している。事業所や法人の行事のみの参加にも時間外や休日出勤として扱い、希望休もできるだけ取れるよう配慮している。職員同士でも話し合いながら働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修や各種の勉強会等の参加を希望する事ができ、多くの研修を受ける機会を確保できるようにしています。また法人全体でも定期的に外部講師による学習会を実施しています。又、入所者の疾患及び認知による周辺症状に対する支援策を構築する際に資料を作成し、疾患や周辺症状等について改めて確認と理解を再認識する機会として活用しながら勉強を継続するようしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会に加入し、勉強会や施設見学などで情報交換、交流の時間を確保しています。グループホーム協会主催の研修等への派遣も実施しています。運営推進会議には近隣グループホームの管理者が参加し情報交換をしています。ネットの情報掲示板による情報収集や情報交換等活用しております。活用できそうな介護支援ケースの内容を会議等で職員へ提供して意見交換を通じて、自分達実践できないかサービスの向上に繋がる努力をしております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事や不安に思っている事が無いか居室で面談を行っています。その際はゆっくり聴いてあげられるように心がけています。直接相談が無くても、日頃の言動や行動やバイタルで変調を感じたら声かけを行っています。日頃の声かけや表情、声の調子、他の利用者との関係性等を観察することで、入所者個々の感情変化等から心理を推し量るように心がけており、都度、心配事や困っている事がないか居室を訪れ話を聞くようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相互の信頼関係を築くのはとても大事な事だと思います。不安に思っている事や悩みを、ご家族から拝聴して把握し、共感する事を心がけています。特に入所前の状況でご家族の苦労話を聞くようにしております。苦しい思いを人に話す事は、家族の心情が少しでも軽くなって頂ければとの思いと家族の苦悩を共感しますとの姿勢を示すことが大切であり、これから一緒に協力しながらお互いの生活が安心して過ごせるよう寄り添いますとの事業所の意思が伝わるようにしております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の実地調査で本人の状態把握を行うことは勿論ですが、本人や家族が気付かない事があれば助言を行いながら対応しています。入所前に本人状況、家族の介護支援方法や生活状況から簡条書きで必要なサービス内容を活字におこして、その内容で良いかお互いに確認する。更に付随する介護方法の内容についても説明して分かりやすく説明するようしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者と食事を一緒に取り事で、会話をする機会が持てる。会話をすることでお互いを紹介し、理解する事が出来る。又、日常的な家事作業でもそれぞれの役割や出来る範囲で関わる事を大切にしているので共同生活者としての関係性は築き続けられているものと思います。長い時間を共有する事で信頼関係やお互いを思いやる関係性が生まれていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者個々の状況報告を必要に応じて、ご報告しております。報告する内容によっては、ご家族のご意見を確認する場合があります。体調関連では、状況報告と合わせて受診を提案する場合があります。入所者様の個々の体調や状況に合わせてご報告として説明をして事業所からの提案や今後の調整や対応とについてご家族のご意見を反映するように相互の信頼関係が維持出来るようにしております。急遽でご家族が対応出来ない場合は、事業所で対応も提案しております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者個々に地域の友人や馴染みの人々が来苑した際には、いつでも来れる事を説明し、事業所でおもてなしをしたり、ゆっくり会話出来る環境を設定したり、遠く離島から来所される親戚にも近況報告をしたり、来所が難しいので、電話はいつでも受ける事を伝え、声が聞きたいときは、いつでも連絡下さいと説明しております。又、冠婚葬祭があった際は、ご家族が対応できない際に送迎の相談があった際は、勤務を調整してお応え出来るよう支援して、親族との面会機会を持てるように支援しております。	親類の冠婚葬祭に出席できるように職員が送迎をしたり、病院受診の帰りに自宅へ寄って仏壇に手を合わせるなど支援している。退所された方の家族が気軽に遊びに来てくれ馴染みの関係を継続している。また、退職した元職員が美容師免許を持っていることもありボランティアで髪を切りに来てくれる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活を通して、毎食時やおやつ時、レク活動時に会話し交流の機会が持てるよう支援しています。また、誕生会やおやつ会、ミニドライブへの参加も皆で楽しみ支え合って過ごせるように支援しています。入所者個々同志、入所者、職員の間でも「ありがとう」助かりました。「いつも感謝しております」等の言葉を掛け合うようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や系列特養、他施設への転所等でサービスが終了になっても経過については事業所と連携を図っています。ご家族の相談等にも対応しています。退所後も家族との関係性を維持できるように心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様の年代、暮らしていた地域性や生活習慣は個々に違いがあることに着目して、入所後の生活が入所前の生活に出来る限り近いものとなり、それぞれが安心して快適に生活できるように配慮している。共同生活において、入所者個々や職員も同様にその人への習慣や性格にも理解と配慮が必要と思う事から月に一回程度は、個々の生活習慣、性格や癖等について語り合うことで、お互いをそれぞれが受け入れられるようにしたりする。トラブル回避策としても活用している。	利用者の「家に帰りたい」や「買い物がしたい」などの要望を聞き、出来るだけ希望に沿えるようにしている。1人1人の時間を大切ににできるよう、職員はさりげなく声掛けし本人の思いを聞き、利用者同士の相性などにも配慮できるよう職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から食生活、嗜好。介護支援に繋がる生活習慣、拘り、やっていけない理(ことわり)を聞き取り基本的な接し方から組み立てる。精神面に配慮して、聞いてはいけない事や話してはならない出来事は禁句とする。これまでの介護保険サービスの利用状況や支援内容は前任ケアマネへ情報提供をしていただき、介護支援が必要と思われる事柄や支援方法や積極的に取り入れるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、日々心身状態は個々に良かったり、悪かったりしているものであります。日々の介護支援では、職員間の情報交換、報告、注意、留意する事について共有する事が大切であり、日々の申し送り事項に対応した職員の見解や対応した際の印象を基に構築した介護方法を伝え、継続性のある介護支援サービスの展開を実践する事が個々の心身状態の把握につながる物として勤めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はサービス担当者会議で入居者様や家族、看護師、介護士、必要時は医師のコメントを頂いて介護計画に反映して支援に当たっています。日頃の申し送りにて得られた入所者の状況から緊急性があるに対応職員から提供された際に現行の支援策に追加処置を図ったり、申し送りで協議したりします。臨時的対応の結果で継続するか再調整も行います。	担当者会議では本人や家族も交えてオープンな場で話しやすい雰囲気を出している。意思疎通ができる方は日頃の会話から職員が拾い上げたおもいを、意思疎通ができない方は表情やしぐさから読み取りケアマネジャーが総合でまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や介護実践を通して生活の様子や気付きをケース記録や業務日誌に記載し、支援に活用している。また、日常的な申し送りにおいて、対応職員から提供された情報と当時対応した内容をから必要性に応じて、対策を講じる支援を実践しております。支援体制の構築や介護計画の見直しの際の資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望や相談依頼で冠婚葬祭、銀行、役所等への動向支援や送迎サービスにも勤務調整で対応し、家族への支援にも配慮しております。補聴器業者、オムツ等の入所者個々の消費物品発注、マッサージ事業所への訪問調整、県外在住の娘や息子への手紙の代筆と郵送等も実施しており、利用者と家族の都合に合わせた対応が出来るようにしております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院の地域支援連携室や八重瀬町地域包括支援センターとの連携を心がけています。関連事業所居宅や通所、特養と連携し、各事業所が向き合っている個々の対象者の問題から多面的な支援が必要となった事案を共同で検討するようしております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知専門外来受診については、本人、家族の同意に基づき受診をしております。認知専門外来受診者は現在4名事業所対応で受診しており、状況変化になった際は、家族も同伴で受診するようにして状況説明と診察及び処方薬についても納得して頂きながら対応しております。事業所で受診する理由は、日々の経過や状況を把握している事業所で担当医への報告が的確に伝える事ができる事を考慮しての配慮です。内科、整形外科、眼科、泌尿器科等については慢性的な疾患での入所前からの継続受診であるので、必要に応じて情報書を受診先へ持参していただいております。	かかりつけ医は基本、家族対応で情報提供所を持って家族対応で受診している。受診後は薬が変わったり、受診結果を口頭で聞き職員全員で共有している。認知症専門医はケアマネが日頃の症状などを担当医に話薬の調整をしている。受診結果を家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックや状況に応じて、看護師へ報告し見てもらい、必要に応じて受診をする支援をしております。看護師による助言に基づき受診科目を選択して受診を出来る体制を構築しております。夜間の緊急事態でも連絡で緊急対応出来る体制も構築しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や医療スタッフとの情報交換やご本人やご家族と医療スタッフとの橋渡しを積極的に支援しています。カンファレンスにも参加し状態の把握、変化を対応出来ています。退院時は、係り付け医への情報提供書の作成を依頼し、切れ目のない医療が継続出来るようにしております。入院時は週に1回面会に出向き、必要時に応じて、担当看護師、ケースワーカーとの面談をして状況に応じた、退院調整や退院後の支援策に取り入れられないか助言を頂いている。ドクターからの助言等も聞き取りしていただいたりしております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の重要事項説明の際に疾病や認知症進行に伴う、重度化や終末期についての本人、ご家族の意向を確認しています。同一法人の特養への入所調整や長期入院による退所者も特養受入れが可能であれば同様に調整しています。入院を伴う状況では、医療機関とご家族を交えて会議をもって、本人状況に応じた支援策や今後の方向性についても検討を重ねて、本人とご家族が選択した方向性に向けて目標達成に向けて支援をするようにしております。	重度化になった場合は特別養護老人ホームへ繋げることを入居前に本人、家族に説明し同意を得てグループホーム申し込み時に同時に申し込みをしている。状態変化時には医療機関や家族も交え話し合い、本人と家族の希望に沿える支援が出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤が一人なので介護職の不安を軽減し、落ち着いて対応できるよう普段から確認しています。緊急時のマニュアル策定や緊急連絡先の確認はその都度行っています。又、日頃の状況とは違うと感じたら経過観察を実施、新たな疾患や慢性疾患の悪化や進行も予測して、夜間に緊急対応しないといけ状況にならないように早めの受診をするよう心がけている。早目の受診をする事で、事前に身体状況や要因が把握する事ができれば緊急時の対応の準備ができて心の余裕が作れる。搬送する病院に新情報を残すことができる等連携が図りやすい利便性を持たせる事ができる。	/	
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を実施しています。火災や地震、水害等のビデオ勉強会をして災害時に入居者全員の安全な避難を行い、いざという時に落ち着いて対応できるよう確認しています。緊急連絡による連携や近隣に居住している関連職員への集合命令が届くようにしてある。	昼夜想定で年2回、避難訓練を行っている。居室をはじめ、窓には防火カーテンを設置している。天井から45センチ以内に飾りをしない様にし、消火器も見やすい場所へ変更している。防災マニュアルも整備され、備蓄は食料三日分以上用意している。水はタンクにたまるようになっておりガス使用の為、台、風で停電になっても食事には困らなかった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者個々の性格、拘り、習慣について、他の利用者から見れば、理解出来ない行為であっても本人にとっては、習慣であります。それぞれの生活に寄り添う事で見えてくる利用者個々のプライバシーや誇りについて、他の利用者から侵害される可能性のある行為は、視線や言葉かけで傷つく可能性もある事に配慮して本人の誇りやプライバシーが損ねられないように事前に介護支援の一環として、配慮する事でそれぞれの日常生活が安心して暮らせるように支援しております。	その人にあった声掛けを行い、一人になる時間の確保も行うなど、一人ひとりの一日を大切にしたいケアを心掛けている。家族が面会に来たときは、できるだけ家族だけの時間を作るようにしている。居室に入る時も本人に確認している。個人情報保護のため書類等は事務室の作り付けの書庫に施錠しすっきりと整理保管されている	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な何気ない声かけや会話から気持を押し量りながら、又、直接的に面談をする事で、それぞれの思いや希望を聞き取る機会を持つようしております。聞き取りした希望や要望は具現化出来るように家族との調整や環境整備、事業所で直接手伝える事については家族に承諾を得て買い物も付き添いする等支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしでは、それぞれが、その日の気分で自身の生活ペースを決めて行動しているもであり、その日の心身状態につて、個々へ確認する事を大切にしております。食事や余暇活動への参加も設定しているが声かけ確認で参加や不参加も本人に任せております。その日それぞれがしたい事や居室でゆっくりしたいという気持も大切にしております。食事時間や入浴も気分が乗らなければ、取り置きして温めなおして本人が頂く時間に提供しております。入浴も午前中で設定しているが気分が午後や翌日へ変更したり、個々の心身状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は入浴後にヘアクリームで整髪したり、顔に保湿クリームを塗られたりしています。整容は基本的には本人が選択し見守りや一部介助で支援しています。散髪は理美容経験のある職員がボランティアで実施しています。馴染みの美容室を利用される際は、ご家族がお連れ出来るよに調整をします。ご家族が対応出来ない時は、事業所で送迎もします。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員がテーブルを囲んで一緒に食事をとっています。食事は以前から後片付けも一緒に行っています。また、個々に応じた食事形態の工夫や、本人に使いやすい食器を選んでもらい楽しみながら食事ができるように工夫しています。お膳の拭き取りをしていたりできる役割を分担しております。	食事は御飯を事業所で炊き、法人からおかずを三食ともに提供している。差し入れの野菜がある時はおかずを一品増やしたり、おやつを手づくりしている。職員も一緒に同じ食事をテーブルを囲み、今日の味付けなどの会話が弾んでいる。食事前に生け花でテーブルを飾ったり食欲がわく工夫も取り入れている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量の確認と共有事項としての報告を継続しながら必要に応じて、調理方法に工夫したり口腔にトラブルがあった際等は、副食を刻んだりして状況の応じて変更して食事摂取が出来るように対応しております。水分についても、摂取量が少ない時は、好みの飲み物を別に準備して差し上げるようにしております。夏場は、アイソトニック飲料を準備して全員に提供する工夫もしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員が確実に実施できるように準備、声かけ、見守り一部介助にて支援しています。入れ歯のトラブルや歯茎のトラブルがある際は、系列事業所に来られる歯科医へ依頼しえ訪問治療をおねがいする支援も行います。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員がトイレで排泄出来ています。一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導や見守りを行っています。便失禁時は下半身浴を行い清潔保持に努めています。個々で失禁要因はことなります。見当識に問題がある方は、トイレへ誘導し排泄を促したり、機能的な問題がある方は失禁も多いが、食前、食後を基本として前後の時間を見極めてトイレ誘導を実施しております。	日中はトイレで排泄ができるよう、排泄パターンを把握し声掛け支援をしている。パットの大きさや月の枚数など統計を取り、家族の負担を軽減できるようにしている。事業所がオムツ等を準備するため、業者も毎年入札を行い、少しでも家族の負担が少なくなるようにしている。パットの枚数など減らせた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の食事献立の工夫、水分量の確保、日中の活動機会により便秘の予防ができるよう支援しています。食物繊維の摂取を考慮した野菜ジュースも定期的に納品していただき喜ばれています。頑固な便秘症の方については、主治医と相談して便秘薬を処方していただいたり、錠剤の服用で腹痛で気分が悪くなる可能性ある方は、3日～4日間隔で座在対応にて便秘の解消にあたるようにしております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望や外出、受診、排泄の失敗などタイミングを見ながら入浴ができるように対応しています。入浴時間も本人が希望される時間帯に合わせるよう調整して支援しています。	入浴は最低でも週2階、午前中に入れるようにしている。同性介助を基本としている為、勤務上で無理な場合は時間を変えて対応している。シャンプーなど事業所が準備しているが、本人のお気に入りや皮膚が乾燥気味の方は家族が好みの物を準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室には電動式ベッド、遮光カーテンが設置されています。入床時にラジオを聞かれる方、テレビを観る方、それぞれが好きなように過ごさせています。エアコンも完備されており適切な温度設定とタイマーセットで快適に過ごせるよう対応しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には処方箋を添えてもらい職員は服薬情報を確認できるよう薬箱の側におき何時でも閲覧が可能です。服薬の変更があった際は申し送りで情報を共有し、変化があった場合は記録に残しています。	看護師がセットした薬を鍵のかかる書類棚に保管し、夜勤と深夜勤がダブルチェックで一日分を準備している。苗字が同じ方が新しく入居されたので間違いがないよう袋の色をかえる工夫をし職員全員で共有している。投薬時も職員が二人でダブルチェックして飲ませている為、今のところ誤薬はない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道や、手工芸などが得意な入居者様は意向を伺いながら職員と活動を楽しまれています。また、職員が積極的に三線や琉舞を練習し、入居者様と楽しみを共有できるよう努力を継続しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力ができる方は、週末にドライブしてもらったり、不定期であるが娘や孫がドライブや外出に出かけたりする機会を持ってもらうよう支援しております。又、家族の協力が困難な方もいらっしゃるので、全体で外出する機会を事業所から提案して、行きたい場所の希望を募り遠出する機会を定期的実施しております。日々の生活では冠婚葬祭の機会があります。家族が忙しくて、対応出来ない際は、事業所が送り迎えをするようにしております。敬老週間では、ホテルレストランでの食事を毎年開催しております。	日頃から出かけたいとの希望に沿えるようにしている。大型免許を持っている職員が法人のバスを運転し気軽に全員での外出が可能となっている。家族に協力してもらい週末にドライブや洋服などの買い物へ出掛けられる支援している。病院受診の帰りに自宅付近を通り話しかけるなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は家族が行っていますが、入居者様より金銭に関わる要望があった時にはご家族へ連絡し来苑をお願いするなど事前調整を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新年には本人様よりご家族宛へ年賀状を出しています。アメリカに住んでいる娘様から時々手紙が届く入居者様がいます。また県外に住んでいる子供宛にて職員が代筆して手紙を書いて送ったりしています。電話は訴えがあるときにできるようにしています。又、県外にお住まいの娘や息子からの贈り物や差し入れがあった際には、届いた日に電話連絡をして直接本人と会話できるように支援しております。合わせて県外のご家族に近況報告もいたします。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くて明るく、全員がゆったりと過ごせるような空間になっています。季節ごとの飾り付けでは、入所者様と職員が一緒となり、季節感や雰囲気を楽しめるように意識しています。	リビングの窓越しにペットの犬と保護犬を眺めることができ、癒しとなっている。ベランダが事業所の周りを一周でき生活リハビリの一つとなっている。散歩しながら隣の畑や、収穫が終わった後に植えられている季節ごとの花が咲き心地いい空間となっている。食卓テーブルやソファ、畳の間もあり好きな場所でくつろげるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで入居者通しが談笑したりテレビ観賞して過ごされています。新聞や本、雑誌を読んでくつろいでいます。お互いの居室への訪問も出ています。今年から沢山の映像が楽しめるようにクロームキャストを設置して入所者の余暇時間が少しでも楽しくなるように工夫しております。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人やご家族に本人の馴染みのものや必要なものを持参するよう勧めています。家族や孫の写真を持参して本人の好きな位置に飾って落ち着いて過ごせるように支援しています。	居室は洗面台とクローゼットや天袋などの収納も備え付けですっきりと清潔感がある。クーラー、防火カーテンやベットも事業所が準備している。本棚やテレビ、パソコンを持ち込んで家族が出張などで面会できない時に、利用者の様子をパソコンのカメラを通して見れるようにしている方もいる。家族の写真や職員と作った作品を壁に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を貼り付け迷わないようにしています。トイレや浴室にも目印になる表示を施しています。壁にはカレンダーや時計を設置して確認できるようにしています。		

目標達成計画

作成日:平成31年2月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	小城自治会に加入させて頂きましたが、自治会区全体に周知できているかについては、まだ薄いようであります。	地域とのかかわりにつきまして、自治会との交流機会を増やすと共に自治会活動への参加をこれからも積極的に進めて行く。	次年度の自治会活動予定を踏まえて、積極的な参加と会合等への出席を通して、交流機会を事業所から求めて行くようにしていきます。	3ヶ月
2	3	地域貢献に関する状況につきまして、自治区や八重瀬町内で職員の資格や経験を活かした、活動機会が少ない現状である。	八重瀬町包括支援センターとの協力体制を強化して、地域での高齢者福祉や事業所の関わり等について発信できる機会を求めて行く。	運営推進会議や各連絡会との協力体制を構築できるように声を掛けて、地域支援活動ができる環境が作れるように活動する。活動の実施ができた際は、事業所としても積極的に参加して協力していきたい。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。